



いっしょに考えましょう「生理の貧困」

お金の面だけではなく、家庭環境や情報不足など、様々な要因が背景にあるのが『生理の貧困』の特徴です。

経済的貧困

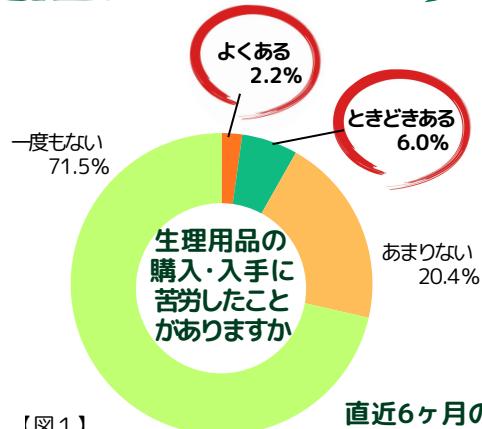
経済的な理由により生理用品を買えないこと

家族関係の貧困

生理や生理痛について家族に話せないこと
話しても生理用品等を購入してもうえないこと

知識の貧困

生理は恥ずかしいもの・隠すものと思うこと
衛生的な使用方法や廃棄方法等を知らないこと



【図1】

厚生労働省が令和4年2月に実施した「『生理の貧困』が女性の心身の健康等に及ぼす影響に関する調査」によると、回答総数3,000人中、生理用品の購入・入手に苦労したことがある（「よくある」「ときどきある」の合計）と回答した人は244人、全体の8.2%でした。【図1】

また、苦労したことがあると回答した人に、直近6ヶ月の間に生理用品を購入・入手できないことが原因で経験したことを尋ねる質問では、「プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる」がいちばん多く、学業や仕事にも影響が出ていることがわかりました。【図2】

直近6ヶ月の間に生理用品を購入・入手できないことが原因で経験したこと

● よくある ● ときどきある ● あまりない ● 一度もない

- プライベートのイベント、遊びの予定をあきらめる
- 家事・育児・介護が手につかない
- 学業や仕事に集中できない
- 学校や職場を遅刻、早退、欠席する
- 学業・仕事中の休憩の頻度を増やす
- 勤務日数を減らす
- 勤務時間を減らす

【図2】

0% 20% 40% 60% 80% 100%

生理は、約28日周期でおよそ4~7日間続きます。腹痛や頭痛のある人、動くことさえつらい人、普段通りの生活が送れる人、量が多い人、少ない人など、その状態は人によりさまざまです。でも、大なり小なり「しんどい」ということは、みんな同じ。

必要な人が、必要な時に、だれにも遠慮せずに生理用品を手にできる環境を整え、生理の「しんどい」を少しでも和らげるサポートをしたいと私たちは考えています。

市の取組み

庁舎等の女性用トイレに生理用品を設置

窓口で生理用品(昼用・夜用)を無料配布

市内の小中学校に生理用品(昼用)を配布

トイレに

トイレットペーパーがあるのは、なぜだろう？

みんなが使います

生理用品がないのは、なぜだろう？

生理中の女性には必要だけど…？



- ※ 生理用品には生理用ナプキン、タンポン、カップ等さまざまな種類がありますが、ここでは、生理用ナプキンを指しています。
- ※ 「生理の貧困」には、生理用品のほかに、生理用下着や月経痛を和らげる薬等の購入・入手困難も含まれます。
- ※ 生理の「しんどい」を和らげるサポートとして、生理用ナプキンを必要なときに手にできる環境づくりを目指しています。